

## 春日山に学び 夜桜に感激

斉藤 勇吉 (高8回)



上杉謙信とは…春日山とは…そして兼統の生き方は…と大河ドラマ「天地人」を興味深く見てはいるが、春日山に私はまだ行ったことがなかった。故郷が全国ネットで放映されているのに地元出身の人間が知らないでは済まされない。今回所用で帰省の折に自分の目で今の春日山を確かめようと思って登ってみた。

春日山神社の石段を150段上がって振り返ると頸城平野は見事に人の里になっていた。住宅やいろんな建物でいっぱいだった。昔はおそらく一面の田んぼであっただろうに、今は目を凝らしてみないと田んぼは見つからない、驚いた。そこから本丸への登り口に謙信公が威風堂々、越後全体をにらむが如く立っている。おそらく眼下の変りようをみて庶民の平穏には喜んでいるだろうが、田んぼをつぶしてしまって兵糧は一体どうしてくれるんだと悲しんでいるかも知れない。

春日山城の歴史は火坂先生に任せ

るとして謙信がほれ込んで居城とした所とはどんな所なのか興味津津。こんな急峻な山によくも城を作ったものだ、どうやって資材を運んだのか、どうやって土を掘ったり積んだりしたのか、ハアハア息をはずませながら思いをめぐらした。地上180メートルという高さはかなりの急坂である。まずはくたびれた。しかし、本丸跡に立ってみるとその見通しの良さは今でも拔群、東京タワーにも匹敵する。眼下に広がる頸城平野の向こうに国境の峰々が手に取るように見えるではないか。後ろは日本海、なんの障害も無い、佐渡まで一望のもとに見渡せる。ここで睨みを利かせていれば、攻めてくるいかなる敵もその動きがいち早く察知できる、ということだ。謙信にとって戦略上いろいろな利点があったであろうが、まずは納得。

本丸跡、天守台跡、毘沙門堂が頂上部分にあり一段下がった所に家臣の屋敷跡がいくつも見られる。更に、生活に欠かせない水の供給が「大井戸」として残っている。



ポンプもモーターもないあの時代によくも立派な井戸を掘りあてたものだ。越後の要塞として自然の形状をうまく利用した山城形式の城郭を、完成させた謙信公の土木的建築的手腕も立派なものである。城の姿形がほとんど残っていないのは残念であるが、土塁跡や空堀跡、監物掘り跡等から山城の考え方がなんとなく窺える。

山桜の満開を眺めながら山を下り林泉寺に寄った。本堂、庫裡、宝物館それぞれ立派な建物にびっくり。400年前の建物は入口の茅葺の門しかないそうだ。「惣門」という名前の極めて質素な小さな門である。その奥には素晴らしく立派な山門が構えていた。山門でツアー客に交じって坊さんの説明を聞いた。『当山林泉寺は上杉家以後高田の大名代々に守られてきたが、檀家の数が少ないため貧乏な時代がずーっと続いた。突然 NHK の大河ドラマで謙信が登場、この林泉寺も脚光を浴び今日を迎えています』と。ツアーの客から思わず笑いと拍手。なかなかユーモアのある坊さんである。そしてここでまた興味ある発見！この山門は大正時代に再建されたのだが、その資金寄付者の中に大倉喜八郎の名が柱に刻まれているのである。壱百円以上寄付者の筆頭に「大倉喜八郎閣下」とある。閣下とは驚いた。わが前職大成建設の前身大倉土木の創始者である。またまた春日山が身近かに感じてきた。

一步下がって山門を仰ぎ見ると「第一義」の大額が掲げられているではないか、なぜこれが山門に？本堂に掲げられているなら謙信の信条として理解できる。山門にこれ

を掲げたということはどういうことなのか。しばし考えて吾輩なりに勝手な解釈、「第一義の精神なくしてこの林泉寺に参るべからず」。さすれば第一義とは何ぞや。母校の大講堂にも掲げられていたことを覚えている。当時はその意味を深く理解しようともせず、漫然と見過ごしていた。天地人の中で兼統は「義とは人間の行うべき道、世に正しき道を示すこと、それが義」と言っていた。謙信の言わんとした真意は…人生「義」を第一に考えよ、ということでしょうか。武将として常に庶民のために戦い続け、決して領土的野心を持たなかったといわれている。最近は何はともあれ偽に走るバカ者がいるが林泉寺のこの山門に縛り付けてやりたい。

山門をくぐって境内を歩く。実に落ち着いた雰囲気である。山桜が所々で微笑み、杉の高木が荘厳さをかもしだしている。京都の寺院のようなきらびやかさは全くない。田舎のお寺である。山の斜面に謙信公はじめ長尾為景公、榊原公、松平公などのお墓が点在している。墓石はみな質素である。謙信公の前に立ち、思わず手を合わせた。49歳という若さで、惜しい人物を失ったものである。19歳から30年間戦い続け、天下を狙えばいくらでもチャンスはあったのに、ただ越後を守り抜くことだけに一生をささげたという謙信公に一層頭が下がる。

宝物館に謙信の愛用の馬上杯があった。直径8センチもある大きな杯だ。謙信公は大変な酒好きであったようだがこの大きな杯で馬上のみならず毎日ぐいぐいやっていたのかな。戦いの前には家臣のモチベーシ



ョンを高めるため必ず大宴会をやっていた  
そうだ。そんな酒量も短命に災いしたよう  
にも思えるが、これは名将謙信に対して大  
変失礼な憶測かもしれない。

いささかふくらはぎに疲れを感じながら  
春日山を後にした。今度は高田公園、桜が  
満開らしい。久しく高田の夜桜を見ていな  
い、実家によって一休みした後お堀に向か  
った。素晴らしい!!超満開の夜桜は昔とち  
っとも変わらない。外堀から内堀へ。高田城  
三重櫓のライトアップ、これまた凄い。ピ  
ンクの向こうの青みがかかった白壁は威厳さ

え放って美しい。司令部通りの向こうには  
桜ロードと称して並木のライトアップ。こ  
れも感激!豪華な夜桜に酔う一時であった。  
忠霊塔近くの枝垂れ桜はすでに高田夜桜の  
一大名所になっているようだ。肩がぶつかり  
あうほどの人、人、人、想像以上のにぎ  
やかさである。

春日山と夜桜、頼もしい観光資源だ。も  
っともっと生かしてほしい。そしてこの賑  
わいが若者をひきつけ、雪に負けない明る  
い高田が持続していければ、またわが故郷  
が自慢できる。じつに嬉しいことである。